

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09010010

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武中央地区 ・事業期間 平成20年度～平成26年度 ・総事業費 1,140,000千円 ・事業内容 用水路工 L=33,530m
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 土地基盤の充実	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	水利施設整備事業(基幹水利施設整備型) 雄武中央地区	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成26年度	担当年度	9 産業振興課	
事業主体	北海道	関係課	#N/A	
事業指標	農業用排水整備	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
事業目標	管路 L=33,530m	関係例規・法令名	無	
住民参加	無	関係個別計画名	有 農業農村整備事業管理計画	
住民協働	無			

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	牧草を基幹作物とする酪農専業地帯であり、保水性に乏しい重粘性土壌が広く分布した無水地帯である。かんがい期間中の降水量も少なく、干ばつ被害が頻発し営農を阻害している。畑かん施設の導入により粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るとともに営農労力を節減し、粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図る。	事業費 97,400千円 25一般 41,000千円 24繰越 56,400千円  事業量 管路 L=2,742m	事業費 25,000千円 事業量 管路 L=1,129m			
	負担区分 国:50.0% 道:27.5% 町:22.5% (起債対象:6.25%)					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	27,540	21,915	5,625	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	7,640	6,080	1,560		
	地方債	5,000	3,500	1,500		
	その他	0				
一般財源	14,900	12,335	2,565			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	16,984	16,984	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	4,710	4,710			
	地方債	2,500	2,500			
	その他	0				
一般財源	9,774	9,774				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 管路 2,263m	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	◎起債(過疎対策)	【評価・実績】				
	◎食糧供給基盤強化特別対策事業補助金		※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	管路 L=2,742m	管路 L=1,129m		
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	77%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	62%	62%	62%	62%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆				

事業名	水利施設整備事業(基幹水利施設整備型)雄武中央地区	評価者	管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者	作成者 職氏名	農務係長	宇野 敏志

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道営水利施設整備事業(基幹水利施設整備型)受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	管路整備延長
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる営農活動への影響	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	畑かん施設の導入による粗飼料の高位安定及び品質の向上	①	年度実績値/目標値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	粗飼料生産を拡大し、酪農経営の安定を図る。	②	達成度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	管路整備	北海道の工事発注により管路 L=2,263mが整備された。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	国営事業の関連事業として位置付けられた事業であり、末端の畑かん施設を整備することにより、粗飼料の高位安定及び品質向上を図るため必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	道営事業により整備を図っており、有効である。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	道営事業であり、事業担当者として協議を重ね、事業費抑制に努めている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	かんがい排水利用者から利用料を徴収するものであり、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

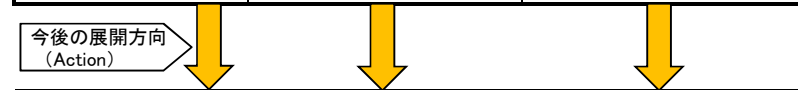
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

北海道において事業内容の計画変更を行ったことから、別途実施計画書の変更を行う。

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
道の予算の関係から若干遅れが見られるが、畑かん施設を導入し粗飼料の高位安定等を図る事業であることから、計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続/現状維持		
営農労力の軽減、粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定化が図られるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止